

佳作 児童・生徒の部

「ハナちゃんのお歯の町」

静岡市立長田西中学校

3年 小松 由樹子

小学一年生のハナちゃんは、とってもオシヤレで元気な女の子。そんなハナちゃんは女の子からも男の子からも憧れられるクラスの人気者です。

ここは、ハナちゃんの口の中。「歯の町」

歯の町は今日も平和でピカピカ。歯の住人達は、楽しくおしゃべりをしています。

「今日も町は平和だね。」

前歯くんが笑顔でそう言うと、奥歯くんも笑顔で言いました。

「うん。これもブラッシーさんと、みがき粉ちゃんのおかげだね！」

ブラッシーさんは、ハナちゃんのお気に入りの歯ブラシ。みがき粉ちゃんは、フッ素入りの歯みがき粉。二人共この町の平和を守ってくれている正義の味方です。

「ただいま！」

ハナちゃんは学校から家に帰ってきました。「お母さん、ハナのおやつはー？」

ハナちゃんがそう聞くと、隣の部屋で洗濯物をたたんでいたお母さんが答えました。

「テーブルの上にショートケーキと、オレンジジュースがあるわよ。」

それを聞いてハナちゃんは大喜び。

「わあい！ハナ、ショートケーキ大好き！」

ハナちゃんはおいしそうにケーキを食べ始めました。

「ハナ、おやつを食べ終わったらちゃんと歯みがきするのよ。」

お母さんがそう言ったのでハナちゃんは、「はぁーい。」

とケーキをほおばりながら答えました。

ところが、そのあとハナちゃんはお母さんに言われたことをすっかり忘れて、テレビに夢中になってしまいました。

夜ごはんを食べたあとにハナちゃんは思いだしました。

「あつ、おやつのおあとに歯みがきするの忘れてた！」

ハナちゃんは前、お母さんが言っていた、「歯みがきをちゃんとしないと虫歯になっちゃうんだよ。」

という言葉思い出して、あわてて洗面所へ向かいました。鏡の前で大きく口を開けてみると、そこにはいつも通りのハナちゃんの歯が映っていました。ハナちゃんはホッと胸をなでおろしました。

「なあんだ。大丈夫じゃない。心配して損しちゃった。歯みがきめんどくさいからしなくてもいいよねっ。」

なんとハナちゃんは、歯みがきをせずに寝てしまいました。ハナちゃんがスヤスヤ眠っている頃、歯の町は…。

一生懸命前歯くんがみんなに向かって叫んでいます。

「大変だ！バイキン団が来た！みんな、逃げろんだ！」

バイキン団とは歯の町をめちゃめちゃにしようとする凶悪な組織なのです。

「へっへー。いつもはきれいで嫌な町なのに、今夜は汚れていて最高だなア。俺たちは夜行性だから、今夜は暴れさせてもらうぜえ！」

バイキン団のボスがそう言うと、一斉にバイキン団は歯達に攻撃し始めました。歯の町は悲鳴に包まれました。

「どうして今日はブラッシーさんも、みがき粉ちゃんも来てくれないんだ……！」

そう言いながら奥歯くんは辺りを見渡しました。そこには、ジュースやケーキや夜ごはんを汚れてしまった歯の町の姿がありました。翌朝、ハナちゃんは鏡を見てビックリ。汚

れてしまったハナちゃんの歯が映ったからです。あわててハナちゃんは歯みがきをしました。

「どうしたんだ、歯の町は……。」

長身のブラッシーさんはそう言い、辺りを見回しました。すると、バイキン団を見つけました。ブラッシーさんとみがき粉ちゃんは見事、バイキン団を倒し、歯の町をきれいに掃除しました。しかし、バイキン団に虫歯にされてしまった歯は、いくらブラッシーさんやみがき粉ちゃんが頑張っても元通りになることができません。

ハナちゃんはいつものように、オシヤレをして学校へ行きました。けれども、なんだか元気はでないし、自信も持てません。

それなので、ハナちゃんは勇気をだしてお母さんと一緒に歯医者さんへ行きました。ハナちゃんの虫歯は治り、元通りの歯になりました。

それからハナちゃんは、毎日ちゃんと歯みがきをしています。歯の町は、ブラッシーさんとみがき粉ちゃんが守ってくれているおかげで、今日もピッカピカの平和な町です。